

## 「東御の森」の自然について 学ぼう

「東御の森」(奈良原市有林)から、  
森の自然環境について考える森林環境イベント 第8回

日時: 2月21日(木) 午後7時~9時  
(受付開始 午後6時30分)

内容: ◇「東御の森」で暮らす生き物たちの紹介 (スライド紹介)

植物 昆虫 野鳥 小動物 水生生物 など

加々美 貴代 (NPO 法人 やまぼうし自然学校)

安部 拓也 ((株)Biotop Guild)

◇ 植物の種子(タネ)の生き残り戦略 (種子散布のいろいろ)

顕微鏡による種子の観察

石井 規雄

(国際生物学オリンピック日本委員会教育支援部会 主査)

定員: 30名 無料です。

場所: 東御市中央公民館 学習室5

申し込み・問い合わせ 農林課耕地林務係 市川

☎ 64-5898

2月18日(月)までに、上記へ電話でお申込みください。

主催: (公財)Save Earth Foundation (SEF)

協力: 東御市 (公財)身体教育医学研究所

「東御の森」は、湯の丸高原の麓(高度約1,000m)に位置する市有林。

広さはおよそ10ha、中央に所沢川が流れる溪畔林です。

カラマツをはじめとする森の樹木が、降った雨を土壤に浸透させてゆっくりと流す「水源かん養」の役割や土砂の流出を防ぐ機能を果たしています。

かつては、近隣の人達が薪をとったり炭焼きをしたり、山菜取りなどにこの森を使っていました。現在は、いろいろな植物や動物などが、ひっそりと生活しています。そしてこの生きもの達が、森をまもるために重要な役割を果たしています。

森の自然環境調査などで出会った植物や虫、野鳥などを紹介します。

植物の種子(タネ)を顕微鏡で観察しながら種子散布について学びます。

森の自然環境や生きものたちの命のつながり、

そして森を守るために大切な生物多様性について一緒に考えてみませんか?



・東御市有林はSGEC森林認証を取得し、持続可能な森づくりをめざしています。

・このイベントは国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の交付金による助成事業です。

話題提供①:「東御の森」の生きものたち

「東御の森」で、高校生のネイチャートレイルをおこなっています。所沢川の河畔には、カラマツの他にオニグルミ・サンショウ・ウワミズザクラなどいろいろな樹木や草花がみられ、季節によって移りかわる森の自然を体感できます。多くの虫達が、花の受粉に貢献しています。自然の倒木が森の土に還っていく様子も観察でき、森の中の生き物たちの命のつながりを感じます。

昨年あらたに出会った花や虫たちも紹介します。

NPO 法人 やまぼうし自然学校 加々美 貴代

「東御の森」の自然環境調査をしています。

森の中では四季折々に、いろいろな生きものが観察できます。樹木・草本・野鳥・昆虫・川の中の水生生物・土の中の土壌生物などなど。それぞれの生きものが関わりあって暮らしていることを感じています。

鳥の調査が専門なので、野鳥が運ぶ種子の話を中心に、鳥の立場から見ると「東御の森」はどのような存在なのかを話します。

(株) Biotop Guild 安部 拓也

話題提供②:

植物の種子(タネ)の生き残り戦略  
(いろいろな種子散布)

観察:顕微鏡による種子の観察

植物は子孫を残すために、いろいろな形で種子を散布します。種子散布を軸として、いろいろな生きもののくらしが見えてきます。そういう生きものたちの互いの関わりや周囲の環境との関わりが、森の基盤となる土壌をはじめ、森林の生態系や自然を形づくっています。

また植物の種子をじっくり眺めることは、日常の中ではほとんど機会がないと思います。顕微鏡を使用して、じっくり観察してみましょう。

国際生物学オリンピック日本委員会教育支援部会 主査

石井 規雄

(公財)Save Earth Foundation (SEF) の森林再生事業について

東御市との保全協定に基づき、「東御の森」(奈良原市有林)の再生保全活動を実施しています。

現在は、保全に向けての自然環境調査とオオハングンソウの除去に取り組んでいます。



SEFの森林再生事業は「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」が推薦する事業として認定を受けています。

